

特集「グループウェアとネットワークサービス」の編集にあたって

星 徹†

人と人とのコラボレーションの支援に関する研究を行うグループウェア研究会が発足してから10年が経過した。この間、グループウェアの、基礎研究、システム開発、実用化が大きく進展し、様々なグループウェアシステムがオフィス、教育、産業、コミュニティなど、協調作業を支援する様々な場面であたりまえに使われるようになった。また、今世紀に入り、モバイル、ブロードバンドなどの新しいネットワークを基盤とした新たなグループウェアの研究も急速に広がっている。一方、グループウェアがシステムの一部となって定着した現在、次の展開が望まれており、協調作業支援をコアに、人と人、人と企業、企業間、人と行政、人と社会などに有益なソリューションを提供するネットワークサービスまで対象を拡大した研究が求められている。このような研究潮流の大きな分岐点を踏まえて、平成13年度からグループウェア研究会(GW研)の名称をグループウェアとネットワークサービス研究会(GN研)と改め、研究対象範囲を拡大し活動を進めている。グループウェアとネットワークサービスに関連する研究論文に関し、まとまった刊行物とし、関係する読者の利便性向上と研究に携わる研究者の論文投稿の促進を図るために特集号を企画刊行してきた。昨年度は、新しいネットワーク基盤を先取りした21世紀のグループウェアの特集号を企画した。今年度は、研究会の名称変更の趣旨に沿ったグループウェアとネットワークサービス特集号を企画し論文募集を行った。これに関して、平成3年3月の全国大会においてグループウェアとネットワークサービス特別トラックを企画開催したところ、82件の優れた論文の投稿があった。従来、この分野においては、GN研、DPS研、MBL研などを中心に、各々毎年100件程度の優れた論文が研究会およびシンポジウムで発表されている。また、グループウェアとネットワークサービス分野の基盤技術はネットワーク、マルチメディア、ヒューマンインタフェースであり、これに関連する研究会と共催で毎年継続してシンポジウムを開催している。ネットワークとマルチメディアの研究に関しては、「マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO)シンポジウム」を、DPS研、GN研、DSM研、MBL研、CSEC研、ITS

研、QAI研の7研究会で共催し、DICOM2001では129件の優秀な論文の発表があった。ヒューマンインタフェースとマルチメディアの研究に関しては「インタラクティブシンポジウム」を、HI研、GN研で共催しており、インタラクティブ2001では12件の論文発表と58件のインタラクティブ発表があった。これらシンポジウムは平成14年度も開催され多くの優秀な論文が発表された。平成15年度も開催が予定されている。本特集は、13年度に開催されたこれらの研究会、シンポジウム、全国大会などで発表された研究を論文として完成させ、迅速に刊行することを目指したものである。論文募集に対して、18件の投稿があった。そのうち査読者とメタレビューの厳正な査読により10件を採録とした。採録された論文の分類は、組織関連携、コミュニケーション支援、情報共有システム、協調フィルタリングである。当初の狙いどおりネットワークサービスの領域を含む広い範囲の論文が採録された。しかし、ネットワークサービスに関する論文は予想以上に少なく、これを増加させることが今後の課題である。採録率は59%となり、前回の特集号の採録率を大幅に上回り課題をクリアできた。また、論文締切りから8カ月と当初の予定通り短期間で刊行を実現でき読者の要求である即応性にも対応できた。最後に本特集号を刊行するにあたり、多数の優れた論文を投稿していただいた方々、短時間で査読するためにご尽力いただいた査読者各位に深く感謝する。

「グループウェアとネットワークサービス」特集編集委員会

- 編集長
星 徹(日立)
- 編集委員(五十音順)
井上 智雄(国立情報学研究所), 岡田 謙一(慶応義塾大学), 倉島 顕尚(NEC), 桑名 栄二(NTT-BB), 関 良明(NTT 東日本), 垂水 浩幸(香川大学/スペーススタグ), 中小路久美代(東京大学), 野村 恭彦(富士ゼロックス), 坂内 祐一(キヤノン), 宗森 純(和歌山大学)

† 株式会社日立製作所